



令和2年も残すところ1週間。子どもたちは今日をもって2学期の学習を終えました。

年が明けたら3学期。最後の学期は、これまで自分ができるようになったことはどんなことか、どんな力が身についたのかを振り返り、次の学年を見据え、これからどんな努力をしていったらよいのかを考える大切な学期です。

保護者の皆様におかれましては、コロナ禍の中、お子様の健康状態を気にされての2学期だったと思います。学校も引き続き感染症対策に取り組みつつ、子どもたちとともに締めくくりの大切さを意識する3学期にしていきたいと思っています。今学期も本校の教育にご理解ご協力くださり、ありがとうございました。

## これまでの学習より

まず、1年生の生活の学習「むかしからつたわるあそびをたのしもう」です。例年、地域の「昔遊び名人会」の方に来ていただき、昔から伝わる遊びについて教えていただいています。また、この学習は、地域の方とふれあう貴重な機会ともなっています。今年は、あやとり、おり紙、けん玉、紙トンボ、輪ゴムでっぼう、おはじき、お手玉、こま回しの8つのブースが設けられました。コロナ禍ということもあり、お互いにソーシャル・ディスタンスを意識しながらの時間となりましたが、自分の手や体を使っての遊びに夢中になって挑戦していました。最後は、体でリズムを取りながらけん玉やお手玉をしたり、的からの距離をだんだん離しててっぼうの輪ゴムを飛ばしたりと、遊びのコツをつかむ子の姿が見られるようになりました。

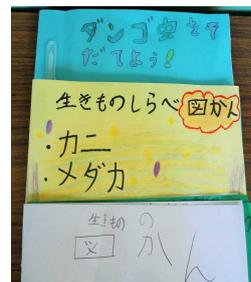
むかしから伝わる遊びのおもしろさに気づいたようです。



次に、2年生が生活の時間に取り組んだ「身近な生きものを伝えよう」です。この学習は、調べた生きものを、ポスターや巻き物、紙芝居、絵本、図鑑、新聞、模型などで紹介しました。

まず、身近にいて自分が紹介したいと思う生きものについて、本やタブレットを使って調べました。その後、それぞれの生きもののすんでいる場所やえさ、成長の様子を、言葉やイラストで表現しました。読みやすいように、そしてわかりやすいように、一文字一文字ていねいに

書いたり、図を使って細かく解説したりと、どの子も工夫を凝らして作り上げました。



そして、6年生の音楽の学習「日本の楽器の音色を味わってきこう」の中で開かれた、箏・尺八教室についてです。この教室も、毎年、地域の方にご協力いただいて開催しているものです。当日は、箏、尺八それぞれの楽器の特徴や歴史、演奏の仕方などのお話を聞いた後、生演奏「春の海」などを鑑賞しました。これまでほとんど聴いたことのない楽器の音色です。6年生は静かに真剣に耳を傾けていました。感想から、美しい音色に心を奪われた子が多かったことが伝わってきました。最後は、箏と尺八の演奏に6年生のリコーダーが加わった「ふるさと」。すてきな時間でした。



11月17日(火)に、「新型コロナウイルス差別・偏見をなくそうプロジェクト」の啓発動画をもとに、感染症に関する差別・偏見について考える学習を全校で行いました。動画をもとに考えた内容は、なぜ差別・偏見の行動や考えが生まれてしまうのか、「病気」「不安」「差別・偏見」という「3つの感染症」の広がりや止めるために自分には何ができるのか、不安を感じたらどうすればよいか、感染症になった人・関わる人とどのように接するべきなのかの4点です。子どもたちは、動画の内容を真剣に受け止め、うなずきながら視聴していました。

学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルスには誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったらどう行動したらよいのかをあらかじめ考えておく必要があります。

保護者の皆様におかれましても、お子さんが感染症のことを正しく理解し、適切に行動できるよう、ご協力をお願いします。

